

# 2025年度 自己評価報告書

学校法人京都南カトリック学園  
青谷聖家族幼稚園

## 1. 教育目標

聖書に基づいたキリストの教えを基本理念として保育している。

育てたい幼児像

- ・神と人と自然を大切に作る子ども
- ・心も体も健康で明るい子ども
- ・思いやりと感謝の心を持つ子ども
- ・主体性のある子ども
- ・創造豊かな子ども

## 2. 本年度の重点目標

・遊びを大切にした保育 毎日の遊び時間が取れるようなカリキュラム

・ティーム保育の充実

教職員全員が園児全員の事を共通理解し、幼児や保護者とのコミュニケーションを取り、援助する

①食育の充実 栽培から調理まで子ども達と取り組めるようなカリキュラム作り

②園外保育は季節を感じながら堤防歩き、電車に乗ったりしながら交通ルールを園外保育の中で身に付けながら取り組む。

③未就園児の施設開放を毎週月曜日に行う。

④子どもの主体性が育つようなカリキュラムの構成

廃材工作、自由な日など。行事は園児を中心に計画、実行できるようにする。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
①	食育の充実	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・畑の土作りから、苗の買い出し、水やり、草抜き、収穫など野菜作りの一連の作業を体験できた。</li><li>・さつま芋は植え付け当初の水不足で生育不良となり収穫が見込めず、近隣の社会福祉法人の畑（有料）に芋ほりに行った。水やりがほとんど不要の芋ではあるが、早い時期から暑くなっていたので、水やりを行うべきであった。</li><li>・クッキングは収穫した野菜を使って匂を知り、不足分は買い出しに行き食への関心を深められた。</li><li>・お店屋さんごっこ（2回）は、簡単な調理（おにぎり、焼きそば、たこせん、ジュース）ではあるが人に提供することを楽しめた。</li><li>・節分は恵方巻を作り恵方を向いて食べ、ひな祭りでは年長児はちらし寿司を作り、季節の行事を体験できた。</li><li>・うどん作りは今年も年中・年長児が出来た。</li><li>・年長児は今年度新たに、野菜の浅漬け、大根餅、お弁当作りをやってみた。弁当作りでは、卵、ウインナー、ナゲット等簡単ではあるが、作ってもらありがたいみもわかり、楽しく取り組めた。</li></ul> <p>◎野菜を育て、足りないものを買出しに行き、自分たちで調理をすることで経験を重ね、食への興味関心がどんどん深まった。次年度も継続的に取り組んでいきたい。</p>
②	園外保育の取り組み	B	<ul style="list-style-type: none"><li>・いろいろな施設や場所に行き、遊具遊びやドングリ拾い、施設内散歩など色々な経験ができた。</li><li>・全学年（いちご組は除く）、JR 乗車体験ができた。</li><li>・今年度も年長児は立木観音の階段 800 段を上ることができた。</li><li>・いちご組は園周辺散歩を気楽に行くことができた。</li><li>・スタンプラリー（宇治植物園）は園児だけのグループで園内を散策できた。</li><li>・少人数での買い物、電車に乗っての買い出しなどを取り入れた。</li><li>・今年もお別れ遠足（年長児）で園児が主体となって JR 乗車や水族館まで地図を頼りに行くことが出来た。</li></ul> <p>◎年々暑さが増し、園外保育に行ける日が減ってきている。公園などに行くだけでなく、日常保育の中での買い物も園外保育の一部としてとらえ、楽しんで保育が出来るように次年度も取り組んでいきたい。</p>

③	子育て支援活動の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週月曜日に、園庭・子育て支援室の開放を行なったが、満3歳児の順次入園や周辺の乳幼児数の減少のためか、利用者はあまり増えなかった。違った広報活動を検討する必要がある。</li> <li>・土曜日のイベントでミニ運動会は鴻ノ巣体育館の工事の為行えなかったが、スタンプラリーや作って遊ぼうなどはたくさんの方が来られてにぎわっていた。2026年度ミニ運動会は開催予定。</li> </ul>
			◎子育て支援の充実をはかるとともに、園児獲得にも一役買っているので今後も充実をはかっていきたい。
④	主体性の育つようなカリキュラムの構成	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“自由な日”を月1回定期的に取り入れ、子どもたちは毎回楽しみにしていた。時間の使い方が上手くなり、廃材工作は時間をかけられるので、子どもが納得できるまで作れ、普段に比べてクオリティも高かった。</li> <li>・行事(宿泊保育、運動会、お店屋さんごっこ、おもちゃつき、クッキングなど)は、準備や買い物をできるだけ子どもたちで行なえるようにした。</li> <li>・廃材工作の作品展を3月の参観時に見てもらい年齢の違いを見てもらえた。</li> </ul>
			◎子どもたちが主体的に行動できるようなカリキュラム(自由な日や保育での子どもの意見の取入れなど)を次年度も取り組んでいきたい。

#### 4. 総合的な評価

評価	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も4つの重点目標について、職員会議を重ねることで色々なアイデアが出るようになり、新しい事にも挑戦できた。先生も子ども達も楽しみながら参加できたと思う。</li> <li>・食育での買い出しは昨年よりも少人数で歩いて気軽に行けるようになり、準備から参加することにより、関心が深まった。</li> <li>・園外保育では、目的を考え行先も増やし歩くことを主体に取り組めた。</li> <li>・職員が何でも用意するのではなく、できることは子どもたちも一緒にすることによって、子どもたちが行事などに関心をもち、満足して幼稚園生活に取り組めたと思う。</li> <li>・子育て支援活動の取り組みは継続的に施設開放を行っているが、利用者が伸びず、園児獲得の為にももう少し努力が必要である。</li> <li>・2歳児クラスは5月から順次入園し、最終13名になった。</li> </ul>

#### 5. 今後の課題

1	食育	学年ごとに目標を設定し、3年間で出来ることを増やして食への関心をもっと深めていく
2	主体性のある保育	園児の声を取り入れていく保育を模索 主体的に取り組めない園児へのサポート
3	園外保育	社会体験を通して、ルールやマナーを身に付ける 歩くことで強い足を作る
4	子育て支援活動の充実	広報活動の強化、地域の人たちに楽しんでもらえる活動の模索 子育て支援からの園児獲得
5	その他	年々暑さが増す中、園外保育、外遊びの取り組み方を考える

評価基準	S 特に他の模範となる
	A 十分に達成されている
	B 達成されている
	C 少し改善した方が良い
	D 改善が必要